

日本語学習者に向けた情報リテラシー教育

－日本研究に役立つ情報検索ガイド実践報告－

浜口美由紀・島中朋子

1. はじめに

国際交流基金関西国際センター（以下、関西センター）は、日本語研修施設として1997年大阪府泉南郡に設立された。関西センターは、海外で日本研究を行う大学院生・研究者、業務で日本語能力を必要とする外交官・公務員・司書・学芸員等の専門家、海外で日本語を学習している高校生から一般社会人を対象とする訪日研修を実施している。年間500人以上の研修参加があり、50言語以上の言語圏から来日している。

関西センター図書館は、同施設内に設置され、日本に関する人文社会科学分野の多言語資料や、日本語学習や日本の文化や生活について書かれた資料を収集・提供しており、専任司書2人、臨時職員2人の体制で運営している。蔵書数は49,716冊（2012年3月31日現在）である。

図書館では毎月ホームページのアクセス分析を行っており、海外からは平均20ヶ国からアクセスがある。図書館ホームページには日本関係の情報収集に役立つページやリンク集を作り、研修参加者の帰国後にも役立つ情報提供を行っている。

研修参加者の来日直後には、図書館オリエンテーションを行っている。全ての研修で実施され、所蔵する資料やデータベースの特徴、利用方法、必要な資料を他の図書館から取り寄せる資料貸借サービスや、雑誌論文などのコピーを取り寄せる文献複写サービスなどについて説明している。

近年図書館が扱う資料や情報は多様化しており、各種データベースやWebsiteなど、図書館の所蔵資料という枠を超えた様々な情報源が存在している。現在日本の大学では、図書館利用も含めた総合的な情報活用能力を育成する、情報リテラシー教育の取り組みが実施されている。当館でも、情報リテラシー教育として「研究に役立つ情報検索ガイド」（以下、情報検索ガイド）と称し、日本での研修期間中、また帰国後も継続して情報収集に役立つWebsiteを使い情報検索演習を実施している。本稿では、この取り組みについて報告する。

2. 情報リテラシー教育としての情報検索ガイド

情報検索ガイドの対象者は、大学生・大学院生・研究者等の研修参加者である。彼らは、日本に関する研究テーマを持っており、専門的な資料を必要としている。国によっても異なるが、

自国で入手できる日本関係の情報が限られる者も多く、日本滞在期間中の情報収集意欲が非常に高い。

専任司書は、研修を担当する日本語教育専門員と事前に打ち合わせを行い、研修スケジュールに情報検索ガイドを組み込んでいる。実施時期は、研修参加者が情報収集を早期に進められるように、研修当初に設定している。

情報検索ガイドは、次の2つの方針で実施している。

① 日本滞在中（研修期間）にしかできない情報収集を行う

研修参加者は帰国後の日本語の専門資料の収集が難しくなるため、滞在中に活用できる情報収集の手段を最大限生かす。そのため、関西センター図書館の資料の活用と、所蔵していない資料は他の図書館の所蔵を調べ、資料貸借や文献複写など、資料入手のための図書館サービスを活用してもらう。

② 研修参加者の帰国後も継続してできる情報収集の方法を教える

Websiteの使い方に慣れ、帰国後も継続してできる情報収集の能力を身につけてもらう。

表1 実施情報検索ガイド

種類	対象研修	実施時期	実施時間
図書編	日本語学習者訪日研修（大学生） 国内大学連携大学生訪日研修 文化・学術専門家日本語研修（大学院生・研究者・司書・学芸員）	来日1～2週間後	1時間半
論文編	文化・学術専門家日本語研修（大学院生・研究者・司書・学芸員）	図書編実施1～2週間後	40分

表2 情報検索ガイドで使用する Website

種類	Website	内容
「図書編」 (約90分)	KC OPAC	関西センター図書館の蔵書データベース
	CiNii Books	国内の大学図書館などの蔵書データベース
	NDL-OPAC	国立国会図書館の蔵書データベース
	大阪府立図書館蔵書検索	大阪府立図書館の蔵書データベース
「論文編」 (約40分)	CiNii Articles	日本の雑誌論文データベース
	ひらひらのひらがなめがね	日本語 Website の漢字に自動的にふりがなをつけて表示する Website
	ReaD&Researchmap	日本の研究機関や研究者情報のデータベース

3. 情報検索ガイドの実践

3.1 実践の手順

情報検索ガイドでは専任司書が表2で挙げたような Website を紹介し、研修参加者がその使い方を学び、図書館資料を含む日本の学術情報を調べる演習を行う。使用する Website には、日本の学術情報を調査するのに基幹となる国立国会図書館や国立情報学研究所のデータベースを中心に、関西センターが大阪府にあることから大阪府立図書館のデータベースや、日本語学習に便利な Website などを選択している。

定員20人のコンピュータールームで実施する。専任司書2人で担当し、説明は日本語で行っている。演習の手順は、最初にキーワード記入用紙を配布し、各自の研究テーマに関するキーワードを日本語または英語で書いて机の上に置いてもらう。同時に、紹介する Website の内容と使い方を簡単に説明した資料も配布し、各 Website を使う前に配布資料でその内容を確認する。次に参加者の卓上モニターに教師用 PC から Website 画面を表示し、特長を説明した上で、具体的な操作方法の過程を見せる。モニターで紹介する時には Website に英語バージョンがあることを説明するが、英語が分からない参加者もいるため、日本語バージョンの画面で説明を行う。

検索例に使うキーワードは、参加者の研究テーマを事前に調べて用意している。説明後、各自実際にキーワードを入力しての検索演習をさせる。各 Website で検索演習をしている間、専任司書が教室内を回り、参加者のキーワードを確認したり、質問に答えたりしている。

3.2 演習における注意点

入力文字に何が使えるかは研修参加者にとって検索の入口として大変重要である。Website によっては、情報として必要とされることも多いタイトルや著者名などの読みがカタカナやアルファベットで表示されていることもある。

漢字がわからなくても読みで検索できることを説明する。読みはひらがな、カタカナで検索できる。使用する Website のうち、「CiNii Books」はアルファベットでも検索ができる。著者名で検索する時には姓と名の間にスペースをおくなど、図書館の蔵書データベース検索における注意点についても説明する。

「大阪府立図書館蔵書検索」は検索の初期設定が前方一致になっており気づきにくいので、幅広く検索したい時には注意が必要なことなども説明している。

図1 CiNii Books

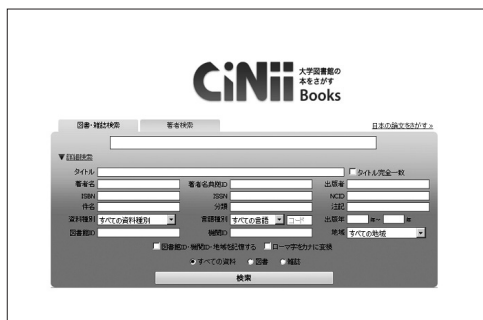
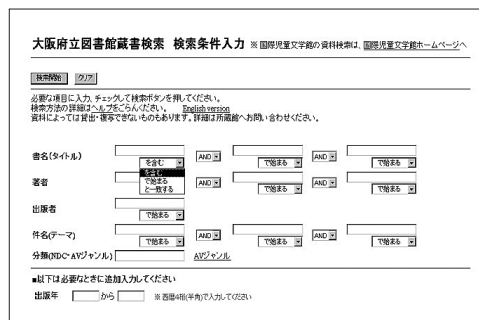


図2 大阪府立図書館蔵書検索



また、日本語の Website を読むことが必要な参加者には、漢字にふりがなを自動的につける Website 「ひらひらのひらがなめがね」を紹介している。

以上のような各 Website の特徴や、入力上の注意点を知らせてもらうことが重要である。

3.3 理解を深めるための工夫

2001年に演習を開始した時は、たくさんの情報を入手してもらいたいとの思いから、現在の倍以上の Website を紹介し、詳しく説明を行った。しかし当時は、コンピューターリテラシーも研修参加者の国によって大きく差があり、コンピューターやインターネット初心者の研修参加者も混じっていて、情報検索以前にコンピューターの操作指導に時間を費やすことも多かった。その上に見慣れない日本の Website を短時間に大量に見るのは負担が大きかったようで、理解にかなりの個人差が見られた。また演習開始当初は、図書と論文検索を同じ時間内で指導していたが、参加者は混乱して、自分が何を探すための Website を見ているのかもわからなくなる人が見られた。その後、検索対象を明確に理解してもらうために「図書編」と「論文編」に分けて実施している。「図書編」と「論文編」を分け、使用する Website も厳選して丁寧に説明と演習を行うようにした結果、検索対象が明確になり、混乱が緩和されたようである。

次に、配布資料について述べる。

配布資料の日本語には全ての漢字にルビをつけ、説明は簡潔にし、必要な情報だけを提示している。Website の説明には英語を併記し、画面の図は大きく見やすくし、注意を要する部分にはキャプションをつけている。各 Website の画面や情報は更新されることがあるため、演習前には毎回配布資料を必ず見直し、必要に応じて改訂している。

演習のはじめに参加者が記入したキーワード記入用紙を机の上に置かせているのは、各自が書いたキーワードを確認するためである。日本語表記の間違いの訂正や、適切なキーワードを指示するためにとっても有効である。検索は単語のキーワードの組み合わせによって行うが、助詞を入れて文章で検索してしまったりすることなどから検索がうまくいかないことも多い。日

本語語彙の知識が少なかったり、各自の専門分野の日本語語彙をよく知らないために適切なキーワードを見つけられないことも多く、キーワードの指示、同義語や類義語の指導なども行っている。

思うような検索結果が得られない場合などは、タイトルだけでは判断できない資料の内容を表す件名や分類など、図書館のデータベースが持つ独自のルールを踏まえた検索結果の広げ方や、絞込みの方法を用いて検索の支援を行う。また、各 Website 毎に演算検索（スペースを使った AND 検索の他、OR 検索や NOT 検索、「*」などの論理演算子やプルダウンメニューを使用した検索）の特徴もあるため、それらについても指導を行う。

情報検索ガイドを行うにあたり、最初のステップとして関西センター図書館の所蔵資料を OPAC を使って調べるよう指導している。研修参加者に一番近い図書館を知り、資料を理解してもらい、日常的な図書館利用へ導くことを意図しているためである。次のステップとして、関西センター図書館が所蔵していない他の専門的な資料や情報を、Website を活用して入手する方法を提示している。演習後の研修参加者は、関西センター図書館 OPAC の活発な利用や、資料貸借や文献複写サービスの利用などを通じて、紹介した Website を活用して情報収集している様子が見られる。

その他に自国の図書館に資料貸借や文献複写サービスがなかったり、あっても利用したことのない人は、日本の図書館サービスを知って驚くこともあり、これらの基本的な図書館サービスについても時間を取って説明している。資料貸借に関しては、帰国後は各参加者の国や所属機関の事情によって難しいことが多い。雑誌論文に関しては、前記 Website で PDF が入手できるものなどインターネット上で入手できるものも増えてきており、国立国会図書館や CiNii の登録会員になると海外からも文献複写依頼ができることなど、帰国後も利用できるサービスの紹介も行っている。

4. 研修参加者からの評価

情報検索ガイドを実施した研修ではアンケートを実施している。

表 1 にあるように「日本語学習者訪日研修（大学生）」と「国内大学連携大学生訪日研修」では「図書編」のみ 1 回行い、「文化・学術専門家日本語研修」は「図書編」、「論文編」と 2 回実施している。

アンケート記述は、「情報検索ガイドが役に立ったか」を「はい」「いいえ」の二択とし、「はい」の場合は、役に立った Website 一覧にチェックする記載方法としている。

表3 情報検索ガイドのアンケート結果

	2010年度	2011年度	合計
実施回数	5 研修10回	7 研修12回	12研修22回
参加者数	119	158	277
役に立った はい	107	139	246
いいえ	7	8	15

表4 役に立った Website (複数回答可)

役に立った Website	2010年度	2011年度	合計
NACSIS Webcat (2013年3月で終了)	66	61	148
CiNii Books (上記後続2011年11月公開)	—	21	
CiNii	64	68	147
CiNii Articles (上記2011年11月名称変更)	—	15	
KC OPAC	38	68	106
NDL-OPAC	34	39	73
大阪府立図書館蔵書検索	22	40	62
ReaD	30	—	52
ReaD&Researchmap (上記後続2011年11月公開)	—	22	
ひらひらのひらがなめがね	11	17	28
J-Stage	11	—	11
PORTA	9	—	9

Website についての自由記入欄には、「日本の Website はとても使いやすく便利」「自分の国にほしい」「同じ研究テーマの先生がいるのを知ることができとても助かりました」などの回答が書かれており、全体的に情報検索ガイドの満足度は高いようである。一方、「全ての論文をダウンロードすることができない」「今はまだ興味がない」「Not enough English sources」などの回答もあった。

5. 終わりに

情報検索ガイドをはじめた2001年頃には Website は日本語表記だけのものも多く、現在のように英語バージョンと切り替えて使うことができるものはわずかで、日本人以外の利用者を意識して設計されていないことを、研修参加者による多くの質問で気づかされた。ここ数年で英語バージョンを用意する Website も増えたが、トップページにしか切り替えるメニューがなかったり、途中の画面でメニューがあっても、切り替えるたびに経過がリセットされて検索を最

初からやりなおさなければならなかったりするなど、まだ使いにくいものも多い。英語バージョンを使っている、検索結果の絞り込みなどに使う分類などの追加メニューが日本語表記しか用意されていないなど、整備が不十分なものもある。

近年の情報技術の進展により様々なデータや機能が盛り込めるようになっているが、検索画面や検索結果を表示するインターフェースに文字情報が詰め込まれすぎて、外国人利用者や情報リテラシーの低い利用者には情報の取捨選択が非常に難しくなっていくのではないかと危惧もしている。

そのような問題はあっても、現在日本の大学では大学が発信する学術情報（論文、テクニカルレポート、報告書、特殊コレクションなど）を電子化してホームページから提供を行う「機関リポジトリ」の取り組みが行われており、その影響もあって「CiNii Articles」は年々収録データベースが増えている。インターネット上でPDFで得られる論文が増え、海外からも日本語の論文が格段に入手しやすくなってきている。

私たち専任司書は、情報検索ガイドの実践を通して、日本の Website に関する課題を参加者から教えられることが多い。例えば、読みでの検索について説明を行うことは、参加者からの質問によって気がついたことである。日本人には気がつきにくい文字入力の問題、インターフェースの問題、資料の入手方法など、演習を行う度に参加者から課題を投げかけられている。

多くの日本の大学では情報リテラシー教育への取り組みが行われている。しかし、大学教員との連携、大学カリキュラムとの調整、図書館側の実施体制などの多様な問題も報告されている。そこで、関西センターの情報検索ガイドでは、図書館と日本語教育専門員との連携を重視し、研究活動を伴う日本語研修では、研修の中に情報検索ガイドをほぼ必修の形で埋め込んでいる。これが、関西センターの情報リテラシー教育の特長と言えるだろう。

〔参考文献〕

- 高嶽裕樹（2011）『デジタル情報資源の検索』増訂第3版 京都図書館情報学研究会
日本図書館協会図書館利用教育委員会（2010）『情報リテラシー教育の実践』日本図書館協会
———（2003）『図書館利用教育ハンドブック 大学図書館版』日本図書館協会
藤田節子（2007）『キーワード検索がわかる』筑摩書房
中島玲子（2009）「ユーザ理解のために」『情報の科学と技術』59巻 7号、322-327

〔参考ホームページ〕

大阪府立図書館「大阪府立図書館蔵書検索」

<<http://p-opac.library.pref.osaka.jp>> 2012年9月27日参照

科学技術振興機構「J-Stage」

<<https://www.jstage.jst.go.jp/AF13S010Init/~char/ja/>> 2012年9月27日参照

国際交流基金関西国際センター図書館「KC OPAC」

<<http://jlik-opac.jpf.go.jp/mylimedio/search/search-input.do>> 2012年9月27日参照

———「日本研究のための情報検索(リンク集)」

<http://jlik-opac.jpf.go.jp/mylimedio/dirsearch/dirsearch.do?dirid=category_link&nodeid=category_link_1>
2012年9月27日参照

国立国会図書館「NDL-OPAC」<<https://ndlopac.ndl.go.jp/F/>> 2012年9月27日参照

国立情報学研究所「CiNii Books」<<http://ci.nii.ac.jp/books/>> 2012年9月27日参照

———「CiNii Articles」<<http://ci.nii.ac.jp/>> 2012年9月27日参照

Hiragana.JP「ひらひらのひらがなめがね」<<http://www.hiragana.jp>> 2012年9月27日参照

科学技術振興機構「ReaD&Researchmap」

<<http://researchmap.jp/search/>> 2012年9月27日参照